

# んぽん舗

ポツ



238号

2023年 6月

[発行元]

石巻市NPO支援オフィス  
〒986-0832 宮城県石巻市泉町3丁目1-63  
TEL・FAX 0225-23-3641  
MAIL : centerishinomaki@gmail.com  
http://ishinomakinposhienoffice.jimdo.com/  
開館時間：月～金 10:00～20:00  
土曜日 10:00～18:00  
休館日 日曜・祝日・第四木曜日

毎月25日発行

NPOや市民活動に  
役立つ情報をお  
届けします。  
みなさまからの  
情報提供もお待ち  
しております。



## 助成金情報

### 2023年度 特定活動助成

#### ●趣 旨

近年、国内では地震や豪雨などの自然災害が相次いで発生し、地域の復興や生活再建とともに、被災した人々の心のケアの必要性が指摘されています。また、少子高齢化・人口減少が進む現代は、高齢者の孤立や、青年・壮年の引きこもり、孤立した育児や介護など特有の課題があり、新型コロナウイルス感染症の発生は状況をさらに深刻化させています。さまざまな困難に直面する人々の話を親身に聴き、心の奥からこぼれてくる思いを受け止める「傾聴ボランティア」が、ますます求められています。全国で心のケアのための傾聴ボランティア活動をしている団体に助成致します。

#### ●対象となる団体

心のケアのための傾聴ボランティアとして活動をしている団体(自然災害の被災者をはじめコロナ禍で困難な状況にある人等を傾聴)上記の団体のうち次の二つの条件を満たす団体を対象とします。・応募に際して、地元社会福祉協議会の推薦を得ること。・団体として、既に一年以上の活動実績があること。

#### ●助成期間および金額

最長3年間。年50万円を上限としますが、助成額については活動内容により査定します。継続助成につきましては、経過報告を重視して決定します。

#### ●助成金の使途

助成金は、活動に直接要する会議費、旅費交通費、通信運搬費、機材購入費、消耗品費、印刷製本費、諸謝金等に使用するものとします。※既に終了した活動には助成致しません。※助成金の使途については、費目一覧をご参照の上、具体的な積算根拠とともに記入してください。なお、助成決定後に各費目の金額を変更することは原則としてできませんのでご注意ください。※助成期間終了後に領収書(原本)および明細書をご提出いただけます。

#### ●応募締切

7月31日(月)17時必着

#### ●お問い合わせ・申請書送付先

公益財団法人ユニバーサル財団 〒160-0004 東京都新宿区四谷2-14-8 YPCビル5階  
Tel. 03-3350-9002 Fax. 03-3350-9008

その他詳細はこちらから

<https://www.univers.or.jp/index.php?civilactgrant>

## 石巻市NPO支援オフィス 機器利用及びレンタル備品貸出について



#### 輪転機

製版代…1製版につき1000円(B4以上のサイズは1製版2000円)

枚数代…1000枚ごとに1000円

※白黒のみ印刷可能です。

※1回のご使用での印刷枚数の上限は6,000枚まででお願いします



#### コピー機

白黒料金(B5～A4)1枚10円 (B4～A3)1枚30円

カラー料金(B5～A4)1枚30円 (B4～A3)1枚50円



#### パソコン

オフィス内で無料でご利用いただけます。おひとり様3時間まで。(無線LAN環境あり)

#### レンタル備品



かき氷機やポップコーン  
マシンあります。  
必ず事前にご予約くだ  
さい。

石巻市NPO支援オフィス 電話・FAX:0225-23-3641 メール:centerishinomaki@gmail.com

## 復興ボランティア学 in 石巻専修大学

昨年に引き続き、2023年5月も2週にわたり「復興ボランティア学」の講義がありました。この講義では大震災後から現在まで時間とともに変化していく石巻地域の課題に向き合ってきた団体等のリーダーや石巻専修大学の教員を講師として、大震災後の復興の状況を学びます。石巻地域で活躍している復興に携わる団体の実態の理解、そして小さなことでもいいので、学生一人一人が自分から進んで復興に貢献することを目的としています。

5月24日の講義では、いしのまきNPOセンター代表理事 木村美保子さんが「震災後のボランティアとNPO活動について」をテーマにボランティアとは？、NPOとは？というところから震災当時の状況を鮮明にお話ししてくださいました。

震災当時、石巻専修大学はボランティアの拠点となっていました。そこから考えても、学生ボランティアの力は非常に貴重。今後の“もしも”を考えた時、大学生のみなさんの活躍を期待していますし、是非お願いしたいと語ります。

美保子さんがこの講義で伝えたかったことは「誰かのために、何かのために、自分のできることを見つけよう」震災直後、いしのまきNPOセンターでは美保子さんや他の理事が中心となり支援物資の受入れから配布まで市内各地で開始、また物資だけでなく、炊き出し支援団体や復興支援に来る団体のコーディネートを行い、地域の市民に寄り添う活動に全力を注ぎました。

「誰でも、何でも出来るわけではない。今、サポートを必要としている人に自分はなにが出来るか」  
“自分の出来ることを知っておくこと、自分の可能性を見出し、活かす努力をすること。日々の学生生活の中で、自分のいいところを探しておきましょう。必要とされる自分づくりは常に必要なのです。”そう力強く学生たちに語りかける美保子さんでした。



いしのまきNPOセンター代表理事 木村美保子氏

## 6月12日は「みやぎ県民防災の日」

1978年6月12日、マグニチュード7.4の宮城県沖地震が発生し、本県に多大な被害をもたらされました。今後起こりうる大規模災害に備えるため、宮城県の震災対策推進条例により、毎年6月12日は「みやぎ県民防災の日」と定められています。今回はお2人の方に記憶に残る震災と自分に今できる防災をお聞きしました。



子育てひろば「スマイル」 千葉さん

【年表】(宮城県)  
1994年 三陸はるか沖地震  
2003年 宮城県北部地震  
2008年 岩手・宮城内陸地震  
2011年 東北地方太平洋沖地震  
(東日本大震災)



石巻千石船の会 本間さん

【年表】(宮城県)  
1933年 昭和三陸地震  
1960年 チリ地震  
\*チリ南部に観測 史上最大の超巨大地震が発生。  
22時間半かけて石巻に到来。  
1978年 宮城県沖地震

## ●いちばん記憶に残る震災は？

2011年3月に発生した東日本大震災です。  
当時20代前半、人生で初めて体験した最大の災害です。

## ●千葉さんの「自助防災」とは？

子供用の自転車ヘルメットを玄関に置いたり、おむつは早めに買っておいたり、普段の生活の中で防災を意識しています。家族間で避難場所や通学路の確認をしルールを決めています。

## ●いちばん記憶に残る震災は？(3.11を除く)

1960年5月に発生したチリ地震です。朝早く警報が鳴り日和山の階段を登りました。川を見に行った人もいました。

## ●本間さんの「自助防災」とは？

枕元に携帯ラジオ(乾電池式)と懐中電灯を置いています。ペットボトルの水は備蓄しています。避難訓練は地域の特色によって違うので、臨機応変な対応ができればいいと思う。

